

2021年7月13日  
日本船主協会 企画部広報室

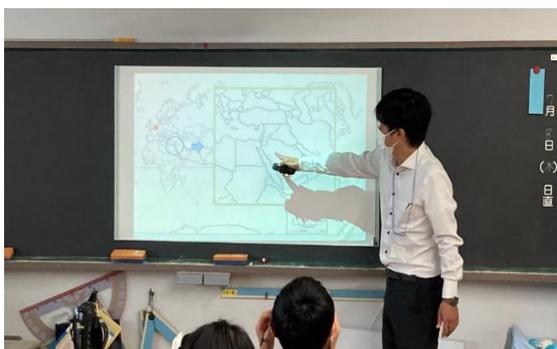
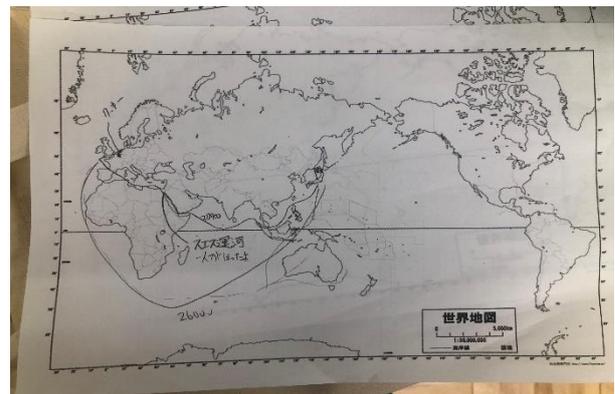
## 出前授業を東京都港区の小学校にて実施 ～海運や船員の仕事について紹介～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。今般、東京都港区筈小学校において、7月8日（木）に（一社）日本船長協会と協力し、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたので授業の様子をお知らせします。



外国産のクッキーを配布し、クッキーは、「どこの国から」、「どのような手段」で日本に運ばれたのか児童たちに考えてもらいました。

クッキーは「ベルギーから船」を使って運ばれていることを伝え、日本への輸送ルートを見童たちに予想してもらいました。児童の多くは「南アフリカ経由」と予想。



正解は・・・  
大陸に見えて、ここには「スエズ運河」があり、運河を通ると1週間程度、航海日数が短縮できることを伝えました。

船と他の輸送モードとの比較も行いました。船は大量のモノを安く運ぶことができ、時間はかかるけど、意外と速い事を伝えました。（ウサインボルトと同じ!?)





「校長先生はどんな先生？」という質問に対し、「学校で一番偉い、責任者」や「学校のことを一番知っている」などと児童たちは回答。

更に「船のことを一番知っている人は？」という質問に対し、児童たちは「船長」と回答。ここで船長が登場し、児童たちに拍手で出迎えられました。



船長より実体験に基づき船内の仕事や生活について説明するとともに、SDGs への取り組みにも触れました。

質問タイムでは児童たちから「食事はおかわりできるの?」、「海賊はいるの?」といった質問や先生からも「数か月乗船後の休暇は?」など次々手が上がりました。



最後にロープワーク体験を実施し、授業終了。

当協会オリジナルグッズも配布し、船の重要性をPRしました。

当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上